

<p>ひょうご <b>県知協</b> NEWS 〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉</p>	<p>発行 一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会 〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター5階502号室 TEL (078) 862-6026 FAX (078) 862-6082 E-mail: hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp 発行責任者 松 端 信 茂</p>
---	--

## 就任挨拶

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会  
事務局長 福西 堅固

異例の速さの梅雨明けから猛暑、ゲリラ豪雨等異常気象が続き、ようやく秋が訪れましたが、秋らしい気候とは言えずまだまだ暑い日が続いており、うんざりする日々です。

今年4月より兵庫県知的障害者施設協会の事務局に配属になりました福西と申します。ご承知おきの方もいらっしゃると思いますが、私はこの3月まで会員の皆様と同じく障害福祉サービスの事業所で勤務しておりました。その中で、協会の役員も何期か務めさせていただいておりました。ただ、外から(と言っても割と近いはずなのですが)見ていた事務局と中に入って見た事務局では知らないことが多々ありました。改めて先人の皆様のご努力を痛感する次第で、身の引き締まる思いです。

さて、新型コロナ感染は昨年度末の第6波が、年度が替わりようやく落ち着いてきたかと思った矢先、第7波へと移行し猛威をふるっています。協会へは7月になってから地区会を通じて感染者発生地の報告が相次ぎ、8月になると毎日のように入ってくるようになりました。中には利用者定員のほとんどが感染するというような大クラスターが発生したところもありました。大小の違いはあれど、利用者の皆様への対応にご尽力されたスタッフの方々へは、「頑張ってください、ありがとうございます」の言葉を送りたいです。9月に入りピークは過ぎたような感じではありますが、この感染症、複数回罹患することもありますので引き続き対策に取り組んでいただきたいと思います。協会としても、県の衛生物資提供や見舞金をはじめとする情報提供等に努めてまいりたいと思います。

コロナ対応以外にも、協会では今年度より「強度行動障害スーパーバイザー養成事業」を県の委託を受けて開始いたしました。これは県内5拠点(事業所)にて、強度行動障害の方への支援に関してのスーパーバイザーを、実践を通じて養成し、地域内事業所の支援上の困りごとに対応できるようにしていくものです。現在は5つの拠点で始めましたが、将来的に拠点数を増やしていく予定です。行動障害のある利用者への支援に苦慮されている事業所への一助になればと、メンバーは日々スキルアップに努めております。

このように、協会は会員(施設・事業所)の皆様の協会であるべく、各種事業に取り組んでいきたいと考えております。会員であった私の感性ではありますが、会員の皆様が、利用者の生活や活動に力を発揮していただきやすいよう、微力ながら知福協や県をはじめとする関係機関と協力して取り組んでまいりたいと思います。

これからも皆様のご指導・ご鞭撻よろしくお願ひいたします。

## 神戸地区の報告

神戸地区代表代理 丸山 博徳

神戸地区は、今年度についてもこれまでと同様に、神戸市知的障害者施設連盟（以下、市知連）として事業活動を行っています。

新型コロナウイルス感染症も、第6波から第7波となり、高い感染力により障害福祉サービス事業所でも多くの感染が見られています。特に集団性の高い入所施設では、クラスターが発生しているところもあります。そのような中でも、昨年から実施されている在宅障害者のコロナワクチンの接種補助については、月2回の頻度ですが、応援職員の派遣を継続して行っています。

神戸市においては、昨今の物価高騰により事業運営に影響が生じていることから、次の報酬等の改正が行われるまでの緊急的な支援として、『コロナ禍における物価高騰対策福祉施設等緊急支援事業』が実施されています。市知連としての事業については、5月19日に楠公会館にて、2年ぶりに対面形式で令和4年度総会を行いました。行政報告では、障害者支援課から「神戸市高齢者介護士認定制度」の知的障害者分野からの試験運用開始についての説明、社会福祉施設の整備にかかる神戸市独自の補助制度等や融資斡旋制度、利子補助等の見直しやグループホーム整備支援事業の説明等がありました。

行事では神戸市障害者スポーツ大会が、4月24日に卓球競技、5月21日にフライングディスク競技、5月22日に陸上競技、5月29日に水泳競技と、それぞれに開催されています。この他、福祉行政や各関係機関との会議、打ち合わせ等に会長が出席して、必要な協議を行っています。

今後とも、新型コロナウイルス感染症の更なる予防策を講じながら、必要な事業活動や行事の実施を行っていきたいと考えています。

## 阪丹但地区の報告

阪丹但地区会長 山岡 賢治

阪丹但地区では、5月17日に総会を開催しました。コロナ禍を踏まえ、今年度もオンラインでの開催です。対面での臨場感には及びませんが、新施設長の紹介など、一人一人にスポットをあてる時間は、貴重な機会となりました。

また今回の総会では、役員(監事)について「2名以上」とし、役員を増やせる環境を作っています。現在役員は計10名となっていますが、県知協からの情報共有、地区の研修企画、兵庫県協力スキームへの協力、兵庫県キャラバンとの連携などなど、やるべきことは数多くあります。役員各々は、自身の事業所での業務もある中で取り組んでいるため、もう少し役員数を増やし、新たな課題にもしっかりと取り組めるようにしておきたいという趣旨です。また、他法人の取り組みを気軽に聞ける環境は、何より刺激にもなります。そういった有意義な時間をもっと多くの管理者と共有したい、という思いもあります。興味を持たれた方は、ぜひ申し出てください。

さて、例年であればその後第一回役員会を開くのですが、今年度はコロナ禍のため8月3日に開催、のはずでしたが、やはりコロナ禍のため3名しか集まれず、情報交換にとどまっています。本来検討すべきであった研修計画等については、9月に改めて設定する予定です。

この2年半、これまで経験しなかったことと向き合わざるを得ない日々が続いています。県内の新規感染者数が1万人前後で推移している現状、利用者の安全をどう確保するのか、同時に生活の質とのバランスをどう取るのか、日々問われています。このような困難な時にこそ少しでも意義のある内容を加入事業所に還元できるよう、引き続き取り組んでいきます。

## 播淡地区の報告

播淡地区会長 天野 一雄

新型コロナウイルス感染症「第6波」がピークアウトをし、落ち着きを取り戻したかと思っていたら、再び感染が急拡大して「第7波」が猛威を振り、新規感染者数は各地で過去最多を更新しています。

私が勤めている法人内でも、数名の感染者が出て対応に迫られました。今振り返れば初動対応が迅速に行えたかどうかだったように思います。

播淡地区では「ウィズ・コロナ」を念頭に、感染状況を見極めながらですが、直接顔を合わせてのハイブリッド方式での研修や会議を取り入れていきたいと考えています。この先、まだまだ終わりの見えない不安もありますが、感染拡大防止に向けてがんばっていきましょう。

今年度より事業所において虐待防止委員会の設置が義務づけられました。残念ながら事業所における虐待事案が後を絶ちません。利用者への虐待はあってはならないことであり、障害者支援に携わる施設・事業所への信頼を失うことにも繋がります。「障害者虐待防止法」「障害者差別解消法」等の理念や目的を踏まえ、利用者の権利擁護と虐待の未然防止に努めていきます。

施設長・職員研修については、まず8月には「事業継続計画（BCP）について」「個別支援計画の作成について」のテーマで進めています。事業継続計画（BCP）の作成については、令和6年度からの義務化を見据えて理解を深めていきたいと思っています。その他にも余暇支援をテーマにした研修も考えています。

兵庫県キャラバン事業については、昨年度は中止になりましたが、今年度は実施する方向で計画しています。感染症対策や運営等に関する様々な問題について、課題を共有し最優先課題を取りまとめ、県知協に提案、要望していきたいと思っています。

今年度についても、新型コロナウイルス感染症については、終息が見えない状況で不安ばかりが先にたちますが、利用者主体という基本を忘れずに取り組んでいきましょう。



## 活動報告

### 「持続可能な人材確保と研修の取り組みとは」

人材確保委員会・研修委員会  
委員長 辻井 善弘

新型コロナウイルス感染症が流行して以降、2年間開催できていなかった就職フェアを令和4年7月9日(土)に開催しました。

今回は、県知協に加盟する23法人の皆様がブース出展され、開催の時点では、コロナ感染が勢いを弱めている状況ということも影響して、会場の「北野工房のまち」周辺にもたくさんの観光客がみられ、会場内外共に賑やかな雰囲気の中開催することができました。

この企画は、加速している少子化(令和3年出生数≒81万人)の影響を受け、新しい障害福祉人材の確保にこれまで以上の力を注がなければ、障害のある人たちのより良い暮らしの提供の持続が困難になるという社会福祉問題に対して、人材確保委員会が、『コロナを言い訳にしない!』と言い合わせながら3月に発案・企画し、7月の開催に至ったものです。

この就職フェアは、障害福祉領域の事業に特化した内容となっており、訪れる求職者たちはほぼ確実に障害福祉領域での就労を希望されていることが、他の就職フェアと違うところです。

また、今回のフェアでは、過去2度の開催経験及びこれまでにいただいたご意見を参考に新たにスタンプラリーを取り入れました。これは、訪れた求職者の皆様にあらかじめ4つのグループに分けられたブースを各グループ1か所以上ずつ訪問して4つ以上のスタンプが溜まると1,000円分のQUOカードが進呈されるというものでした。限られた時間の中で、より多くの法人を知っていただけるよう配慮いたしました。

これには、求職者の中でも特に在学生の皆様より、「就職フェアに来るメリットになった」との感想をいただきました。

今回の来場者数は25名、ブース訪問延べ人数101名という結果に留まりましたが、これを継続していくことで、障害福祉の世界が魅力ある仕事であることを広く知っていただく機会になると考えております。

今後も、兵庫県下にお住まいの障害のある人たちのおもしろくて豊かな暮らしのために、この活動を継続していきます。

これまでにご参加の無い法人様や効果を疑問視されている皆様にもこの就職フェアに少しでも興味を持っていただき、人材確保委員会と一緒に活動していただければ幸いです。



## 第16回 兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会

スポーツ委員会  
委員長 吉村 崇

第16回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会が、約2年ぶりにバスケットボールを皮切りに、5月14日から6月4日まで、雨での中止もなく実施されました。全8競技(バレーは未開催)の出場選手数は、475人とコロナ前に比べると減少はしていますが、選手それぞれが力いっぱい競技(プレー)を見せてくれました。

各競技会場では、体調チェックシートの提出やソーシャルディスタンスの確保、必要以外の会話の制限など、感染防止のためいろいろな制約がありましたが、アスリートクラブ・特別支援学校・県知協会員施設・ボランティア等のご協力もあり、大きなトラブルや怪我などもなく、無事に終わることができました。

今大会の反省としては、エントリー説明会・事前説明会は、大会の趣旨や各競技説明の場として、参加側・運営側ともに全体周知の場として必要であり、また各競技担当者同士の情報確認などを行う場としても必要であるとの意見が多くありました。

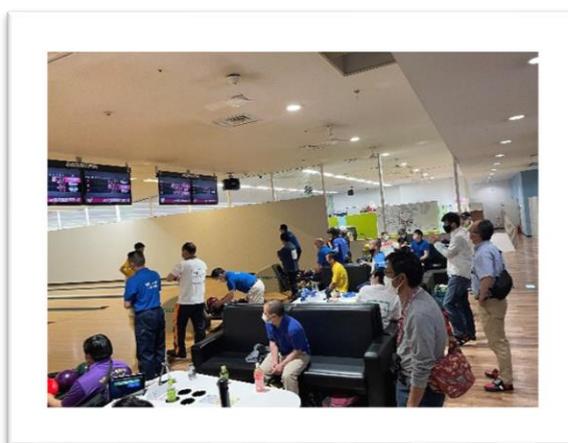
他には、新型コロナ感染など何らかの事情で説明会が開催できない状況になった際でも、問い合わせ先が電話のみで対応が困難になってしまうといったことがないように、メールを活用して連絡や問い合わせができるようにしてはどうか。それにより現場で支援業務に関わっている者(競技担当)にとってもより対応がしやすくなるのではとの意見がありました。その他にも何点かの課題が浮かび上がっており、これらの反省をふまえて来年度の大会実施に活かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、今回ご参加、ご協力いただきました個人・関係機関の皆様、競技運営に携わっていただきましたボランティア・各事業所や各団体等の皆様、感染防止対策を含め、さまざまご尽力をいただきありがとうございました。来年度の第17回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会(ゆうあいスポーツ大会)の成功へ向けて、今後も引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

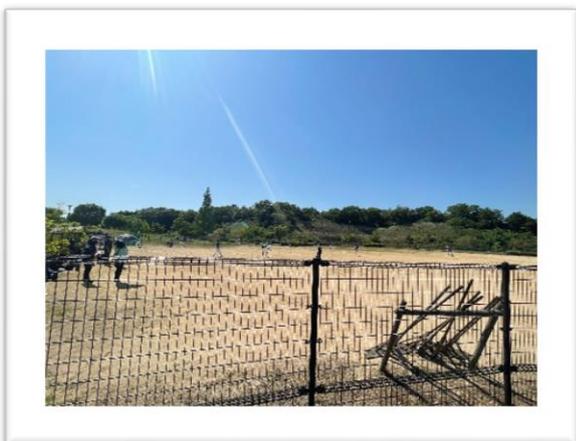
### のじぎくスポーツ大会の様子



5月14日(土) バスケットボール  
県立障害者スポーツ交流館にて



5月22日(日) ボウリング  
神戸六甲ボウルにて



5月29日(日)ソフトボール  
県立三木総合防災公園野球場にて



5月29日(日)陸上競技  
県立三木総合防災公園陸上競技場にて



5月29日(日)フライングディスク  
県立三木総合防災公園第2陸上競技場にて



6月4日(土)卓球  
県立障害者スポーツ交流館にて

## 第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」

(10月29日～31日)での兵庫代表のご活躍を応援しています！

### 編集 後記

今年度から地区の報告の他に各部会・委員会の報告を掲載させていただく事になりました。  
今回の95号は人材確保委員会・スポーツ委員会からの報告です。  
新型コロナウイルス感染の中でも県知協の各部会・委員会がどのような研修や企画を考えているのかなどお知らせできればと思います。  
今後共宜しくお願い致します。

広報委員長 澤村 友也